

鳥取民医連

一職場一事例運動交流集会ニュース

NO.4

2016年12月6日

第11回一職場一事例運動交流集会を開催しました

11月26日（土）午後、県民ふれあい会館5階講義室で第11回一職場一事例運動交流集会を開催しました。

今年のテーマは、「民医連らしさにこだわり、人権を守る地域の架け橋になろう」で、各職場から選出された実行委員会で討議し、運営の改善にも心を配って準備してきました。はじめて使用する会場でしたが、駐車場の問題はあったものの発表も見やすく、概ね好評であったようです。

参加者は95名で、県連内のすべての事業所から参加がありました。



9つの職場から、医療保険制度・介護保険制度の枠を超えた多様な内容の事例報告があり、5分の発表に対して8分の質疑応答の時間を取って、発表者への質問や会場の参加者同士のやりとりなども活発に行われました。

参加者からは、「困難事例を見逃さない『仕組みづくり』を病院内で構築していく必要があると感じた」「私もアンテナを高くそれを上手につなげていけるようになりたいと思った」「多くの発表事例が宝のような事例」「わかさ生協の地域ネットワークのような仕組みが鳥取市でもできれば」「どの事例も中身の濃いものだった。勉強になった。精神疾患、金銭問題、認知症、独居、詐欺などニュースで聞くような事例が身近で起きていることがよくわかった」などの感想が寄せられています。

日常業務の中で患者さん、利用者さんの困難事例に寄り添い、一緒に解決策を探り、制度改善の運動にもつなげることを多くの職種の人たちが一緒に考える良い機会になったと思います。民医連内の連携はもとより、周りの多くの人や団体と一緒に問題解決に取り組むことの重要性にも気づかされました。

アンケートをいかして、来年以降、さらに充実・継続していきます。

